

医療技術評価に関する調査について

診調組 技-1-1
15.11.17

～平成15年度中間報告（案）～

平成15年11月

診療報酬調査専門組織医療技術評価分科会長

吉田英機

当分科会は、中央社会保険医療協議会基本問題小委員会の付託をうけ、診療報酬における医療技術の客観的評価を行うため、様々な医療技術の難易度・時間・技術力に関する調査、重症化予防技術に関する調査およびいくつかの新しい技術の有効性等に関する調査等について、その調査設計および結果の妥当性等について検討を行ってきたので報告する。

1. 難易度について

医療技術の難易度に関し、当分科会では、外科系学会社会保険委員会連合（以下外保連）の手術・処置・検査等に関する調査研究のヒアリング等を含め、その評価方法について検討を行った。今後の調査に関しては、外保連の調査研究を参考としつつ手術・処置等の医療技術の難易度調査を進めることが必要である。調査では、技術を実施するにあたって必要な医師・歯科医師等の経験年数等を評価の基準・尺度として調査を行うことが必要である。

なお、以下のような意見が当分科会で出されたので付記する。

- ・ 医師・歯科医師等の経験年数等の評価が必要。
- ・ 難易度の評価方法を明確にした上で、診療科別・疾病別等で評価することが必要。
- ・ 技術評価に当たり、幅広い職種の視点が必要。

2. 時間について

現行の診療報酬においては、別表1に掲げたように、時間を算定要件にする項目が少なくない。当分科会では、医療技術の時間の評価に関し内科系学会社会保険委員会連合（以下内保連）の調査研究のヒアリング等を含め、その評価方法について検討を行った。今後の調査に関しては、内保連の調査研究を参考としつつ、現行の診療報酬において時間を算定要件としている項目を含め、医科・歯科・調剤・看護等において診療行為等における時間の調査を行うことが必要である。

なお、以下のような意見が当分科会で出されたので付記する。

- ・ 時間の概念を明確にした上で、効率的な調査方法の検討が必要。

- ・ 時間の評価を行う際に、難易度や重症度の評価を加味することが必要。
- ・ リハビリ、透析、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン等の時間の評価を個別に行うことが必要。
- ・ 時間による評価を行う場合、内保連が提案している総合負荷（技術提供に対する精神的・肉体的な負担）という概念も考慮することが必要。

3. 技術力について

手術の施設基準については、技術集積性と手術成績の相関を前提として、平成14年改定で大幅に拡大・導入されたところであるが、その後各方面から、その前提についてエビデンスに乏しいのではないかとの指摘がなされてきた。当分科会においては、10月31日第3回分科会での外保連の調査結果、11月17日第4回分科会でのvolume-outcome研究に対するヒアリング等を行い議論した。手術の施設基準の評価に当たっては、技術の集積性と成績の相関等のアウトカムに関する更なるデータの収集が必要であり、継続して調査が必要である。

なお、以下のような意見が当分科会で出されたので付記する。

- ・ 技術集積性と手術成績の相関等のアウトカム評価が必要。
- ・ 技術力評価の観点から、チーム医療の評価や情報の収集・提供体制について調査が必要。
- ・ 患者満足度等の評価が必要。

4. 重症化予防技術等について

【現在までに分科会で議論されたもの】

(1) 生活習慣病の予防

- ・ 骨粗鬆症予防 (11月17日第4回分科会)
→
- ・ 管理栄養士による栄養指導の効果について (11月17日第4回分科会)
→
- ・ う蝕・歯周疾患の重症化予防について (10月31日第3回分科会)
→混合歯列期における、う蝕や歯周疾患の重症化予防に対する口腔の継続的に行う管理技術の有効性が確認された。

(2) 術後合併症の予防

- ・ 肺血栓塞栓症に対する弾性ストッキングの使用について
(10月31日第3回分科会)

→リスクの高い患者に対して、肺血栓塞栓予防に弾性ストッキングを使用することの有効性を確認された。

引き続き、他の個別の重症化予防技術等についても検討を行う必要性があると考える。

5. 医療技術の評価・再評価について

個別の医療技術の評価を効率的に行うため、普及性・有効性・効率性・安全性・技術的成熟度・倫理性等の項目を含んだ統一したフォーマットを作成し、内保連・外保連等を通じて関係各学会に調査を依頼した。

現在、関係学会等に調査中

(1) 新規技術の評価（適応拡大を含む）

- ・ 生体部分肝移植の適応拡大について（10月31日第3回分科会）
→成人への生体部分肝移植の症例数の増加もあり、手技としての成熟が確認された。当分科会としては、現在得られた調査において成人への適応について有効性が確認されたことから、更なる調査については必要ないと考える。なお、倫理的な問題、手術適応の決定等について配慮する必要があるとの意見があった。
- ・ 子宮筋腫に対する血管塞栓術について（10月31日第3回分科会）
→研究会でのデータの説明から、技術の有効性が示唆されたが、合併症の発生頻度等についてのさらなる調査が必要ではないかとの意見があった。

(2) 既存技術の評価

引き続き、他の個別の技術等についても、調査票等をもとにした、検討を行う必要性があると考える。